

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成23年2月3日(2011.2.3)

【公表番号】特表2010-518833(P2010-518833A)

【公表日】平成22年6月3日(2010.6.3)

【年通号数】公開・登録公報2010-022

【出願番号】特願2009-550598(P2009-550598)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 0 7 K	14/78	(2006.01)
C 1 2 M	3/00	(2006.01)
C 1 2 N	5/071	(2010.01)
A 6 1 L	31/00	(2006.01)
A 6 1 L	27/00	(2006.01)
A 6 1 L	24/00	(2006.01)
A 6 1 L	15/16	(2006.01)
A 6 1 P	35/04	(2006.01)
A 6 1 P	7/02	(2006.01)
A 6 1 K	38/17	(2006.01)
A 6 1 K	47/42	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
C 0 7 K	14/78	
C 1 2 M	3/00	A
C 1 2 N	5/00	2 0 2 A
A 6 1 L	31/00	Z
A 6 1 L	27/00	C
A 6 1 L	27/00	F
A 6 1 L	25/00	A
A 6 1 L	27/00	V
A 6 1 L	15/01	
A 6 1 P	35/04	
A 6 1 P	7/02	
A 6 1 K	37/12	
A 6 1 K	47/42	

【手続補正書】

【提出日】平成22年12月3日(2010.12.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

単離されたXRGD富化した組換えゼラチンポリペプチドであって、モチーフDRGDおよび/またはPRGDを含まないが、少なくとも1つのXRGDモチーフを含み、ここでXはD(Asp)およびP(Pro)またはO(ヒドロキシプロリン)以外のいずれかのアミノ酸である、前記ゼラチンポリペプチド。

【請求項 2】

XがY、W、F、C、M、K、L、I、R、H、S、T、V、A、GおよびEよりなる群から選択される、請求項1に記載の組換えゼラチンポリペプチド。

【請求項 3】

XがEである、請求項2に記載の組換えゼラチン。

【請求項 4】

ゼラチンポリペプチドがS(Serr)および/またはT(Thr)および/またはN(Asn)残基を含まない、請求項1～3のいずれか1項に記載の組換えゼラチンポリペプチド。

【請求項 5】

少なくとも2つのXRGDモチーフを含む、請求項1～4のいずれか1項に記載の組換えゼラチンポリペプチド。

【請求項 6】

ポリペプチドが少なくとも15kDaの分子量を有する、請求項1～5のいずれか1項に記載の組換えゼラチンポリペプチド。

【請求項 7】

10%未満のプロリンがヒドロキシル化されている、請求項1～6のいずれか1項に記載の組換えゼラチン。

【請求項 8】

請求項1～7のいずれか1項に記載の組換えゼラチンポリペプチドの少なくとも2つの反復を含むか、またはそれからなる、ポリマー状組換えゼラチン。

【請求項 9】

反復がアミノ酸配列において同一であり、そしてモノマー反復単位の間にいずれの介在アミノ酸をも含まない、請求項8に記載のポリマー状組換えゼラチン。

【請求項 10】

請求項1～9のいずれか1項に記載の組換えゼラチンを含む、細胞支持体。

【請求項 11】

請求項1～9のいずれか1項に記載の組換えゼラチンを含む、制御放出組成物。

【請求項 12】

請求項1～9に記載の組換えゼラチンを製造するための方法であって、下記：

a) 請求項1～9に記載のポリペプチドをコードする核酸配列が適切なプロモーターに作動可能な状態で連結したものを含む発現ベクターを調製し；

b) 前記の核酸配列をメチロトローフ酵母において発現させ；

c) 前記の核酸配列を発現させるのに適切な発酵条件下でその酵母を培養し；そして

d) 場合により前記ポリペプチドを培養物から精製する；
を含む、前記方法。